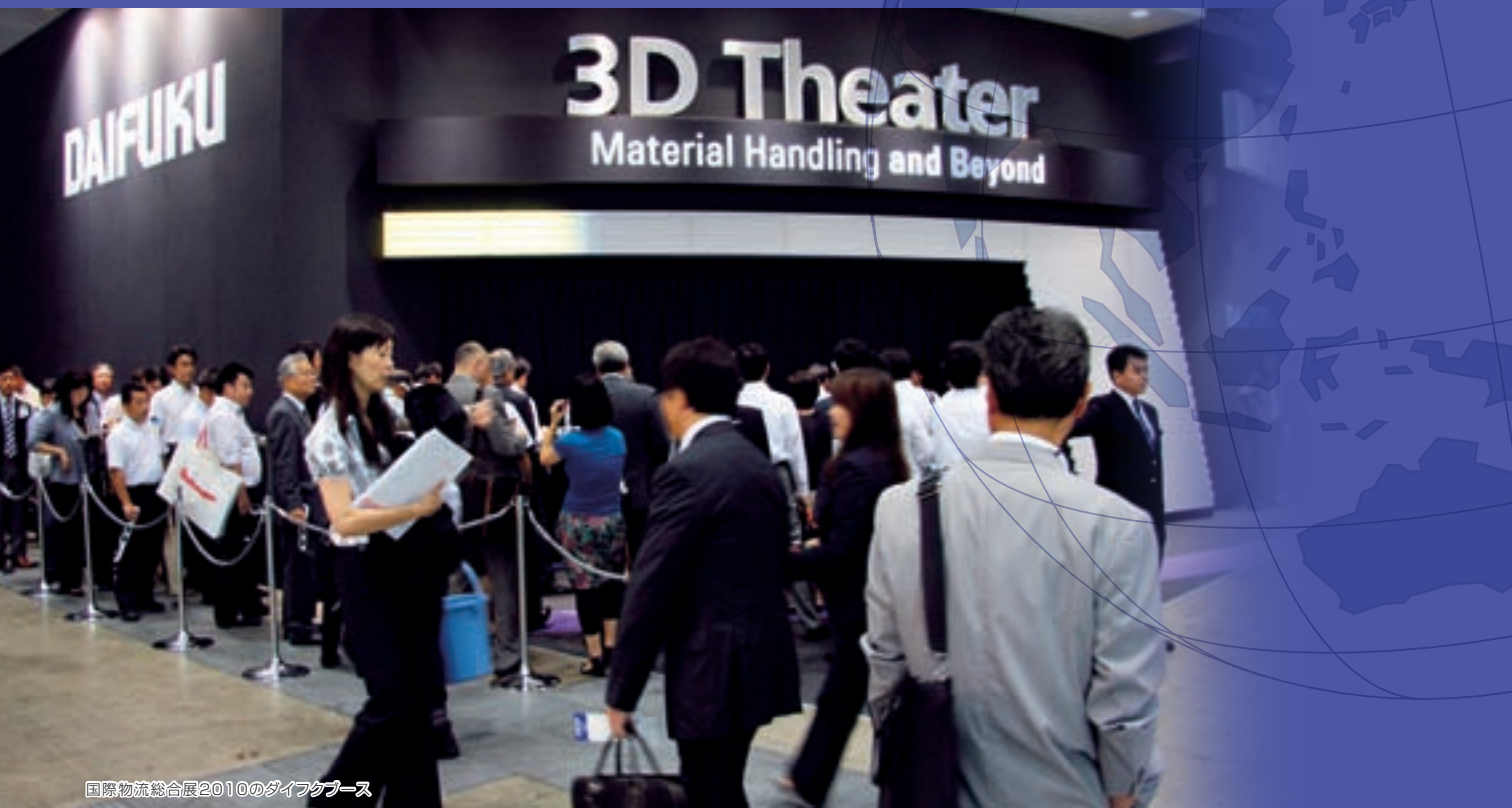


DAIFUKU

Material Handling and Beyond



国際物流総合展2010のダイフクブース

株式会社ダイフク

BUSINESS REPORT

第95期 第2四半期報告書

平成22年4月1日～平成22年9月30日

証券コード 6383

新顧客、新市場、新事業の開拓で 業績向上を目指す



代表取締役会長

竹内 克己

代表取締役社長

北條 正樹

当第2四半期連結累計期間における世界の経済は、中国など新興国をけん引役として緩やかな回復基調にありましたが、先進各国の景気の低迷に加え、急激な円高・ドル安などの通貨状況、株安に加え、後半には各種減税等の内外政策効果が一巡したことにより、減速感に覆われました。

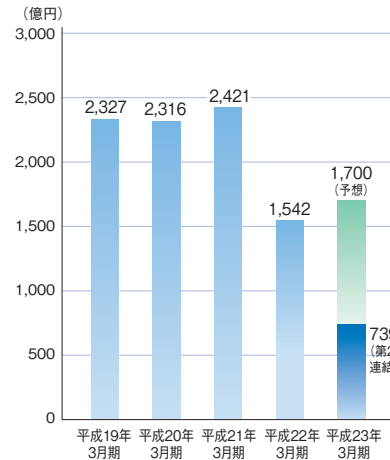
当業界におきましても、先行き不透明感から産業界が設備投資に慎重な姿勢を維持しており、アジア競合メーカーの台頭による受注競争激化とも相まって、厳しい事業環境下に置かれていますが、新しい顧客や市場を獲得するとともに、新規事業の開拓等に注力して業績向上を図ってまいります。

Q 第2四半期連結累計期間の業績は？

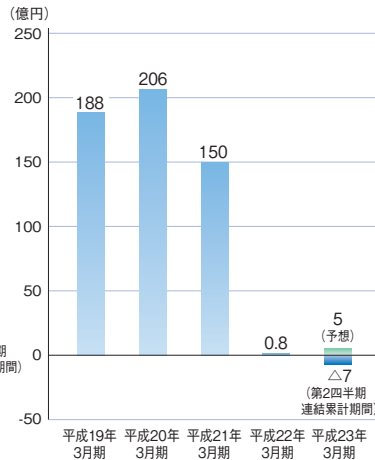
当社グループの受注は昨年度よりも回復しているものの、売上はなお低い水準が続いております。この結果、受注高は77,079百万円(前年同期比48.6%増)、売上高は73,956百万円(同0.9%増)を計上しました。利益につきましては、8月12日に公表いたしました第2四半期連結累計期間の予想数字(営業損失1,800百万円、経常損失1,900百万円、当期純損失2,000百万円)を上回ることができました。これは、受注の回復に伴う工場操業度の向上、全社的な経費削減、連結子会社の株式会社コンテック

財務ハイライト

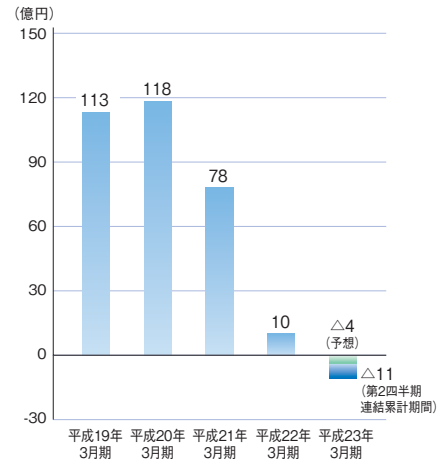
売上高



営業利益



当期(四半期)純利益



などの業績が好転したことに加え、生産面でのコストダウン、プロジェクト管理の徹底が奏功したためであります。第2四半期連結会計期間(7月～9月)では、黒字に転換しております。

この結果、営業損失として753百万円(同28百万円増益)を、経常損失は778百万円(同167百万円増益)を、また一過性の要因ではありますが、資産除去債務会計基準適用に伴う影響額^{*}を計上したことにより、四半期純損失は1,178百万円(同1,220百万円減益)をそれぞれ計上するのやむなきに至りました。

^{*} 将来発生する建物内のアスベスト除去費用やPCB含有機器廃棄物の処分費用等の見込額の過年度対応費用

「ピッキング」編

マテリアルハンドリングとは

モノを運ぶ・仕分ける・保管するシステム、機器のことをマテリアルハンドリング、略してマテハンといいます。

「ピッキング」とは、保管場所からモノを選び、決められた数量を取り出すこと。コンビニエンスストアの物流センターでは、菓子や飲料などの商品を店舗単位でピッキングして、出荷しています。



株式会社ダイフク

食品、医薬品、医薬卸、農業向けなどの大型案件は堅調

受注面では、保管・搬送・仕分け・ピッキングシステム製品では食品、医薬品、医薬卸、農業向けなどの大型案件が堅調に推移しました。

液晶パネル工場向け製品では、中国で大型案件を相次ぎ受注しています。今後は、タッチパネルや3Dパネルなどの新市場開拓にも力を入れていきます。半導体工場向け製品では韓国や北米案件が引き続き順調なうえ、中国でも新規案件を獲得して足がかりを築きました。

自動車生産ライン向け製品は、北米の需要が回復してきたうえ、タイ、中国、インド、ブラジル向けなどが堅調です。反面、国内向けは、依然として厳しい状況が続いております。

洗車機は、洗車需要そのものの拡大のため、対話形式の洗車設定リモートパネル「スマイル フィル システム」を6月に発売しました。また、トラックやバス、トレーラー向けの洗車機「ワックスモア・カミオン」を8月に発売しました。

売上面では、食品、医薬品、医薬卸、農業などの業界向けの大型案件の売上は、堅調に推移しています。中小型システムは、需要低迷の影響がなお続いています。



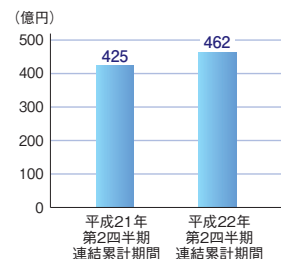
半導体や液晶パネル工場向け製品の売上は、ほぼ計画通りに進捗しています。

自動車生産ライン向け製品は、国内既存工場に対する8月連休の改造工事が前年度より増加した一方、大型案件の受注スケジュール遅延が進行基準売上に影響しています。

洗車機は、カーディーラー業界の設備投資が寄与し、トータルでは計画を上回りました。

利益面では、いずれの製品とも受注競争の激化による採算悪化の影響を大きく受けています。また、新興国市場に見合った価格設定、アジア各国の通貨安による競合メーカーの競争力アップなど、価格面での下押し圧力が強くなっています。

■売上高



セグメント変更のお知らせ

平成22年度から「セグメント情報の開示に関する会計基準」に従い、報告セグメントを以下のように変更しました。マテリアルハンドリングシステム・機器、洗車機等における中核企業である「株式会社ダイフク」、国内外における産業用パソコン・インターフェイスボード等の製造販売を担う「株式会社コンテック」、売上規模が大きく、北米を中心に重要な事業活動を担う現地法人である「JERVIS B. WEBB COMPANY」(以下、ウェブ社)と「DAIFUKU AMERICA CORPORATION」、上記4社以外の国内外の子会社を「その他」と変更いたしました。

旧セグメント・・・物流システム事業、電子機器事業、その他事業

新セグメント・・・株式会社ダイフク、株式会社コンテック、JERVIS B. WEBB COMPANY、DAIFUKU AMERICA CORPORATION、その他

株式会社コンテック

コンパクトな産業用パソコンが高評価

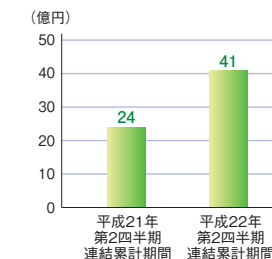
デバイス&コンポーネント製品では、半導体業界の設備投資の増加により、これらの製造装置向け製品の販売が好調に推移いたしました。また、デジタルサイネージ(電子看板)およびセキュリティ市場向けのコンパクトな産業用パソコンの引合いが好調に推移しました。

ソリューション&サービス製品では、セキュリティシステムや太陽光発電データ計測システムの販売が好調でした。

電子機器の組立業務や基板実装などの受託業務も好調でした。



■売上高



JERVIS B. WEBB COMPANY

シナジー効果を発揮して大型案件を受注

JERVIS B. WEBB COMPANY

受注面では、北米のエアポート向け手荷物搬送システムで第3四半期以降にずれこんだ案件がありましたが、自動車会社向けでは、デトロイト・スリーから大型案件を受注し、無人搬送車でも大型受注を獲得しました。

売上面では、手荷物搬送システムで受注遅れの影響を受けましたが、利益面は、黒字に転換しました。

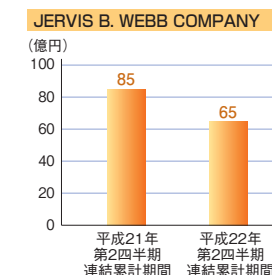
DAIFUKU AMERICA CORPORATION

受注面では、日系自動車メーカーや半導体メーカー向けの設備投資の回復、食品向けの大型案件獲得により、期初計画を大幅に上回りました。利益面でも、期初計画数字を大きく改善しました。

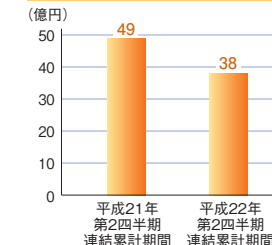
ウェブ社との協働については、製品面の補完のみならず、ウェブ社のプロジェクト管理能力や設計力もお客様から高く評価されており、食品向け大型案件の受注で寄与しました。リチウムイオン電池工場向けなどでも、さらにシナジー効果を発揮して受注に結びつけてまいります。

DAIFUKU AMERICA CORPORATION

■売上高



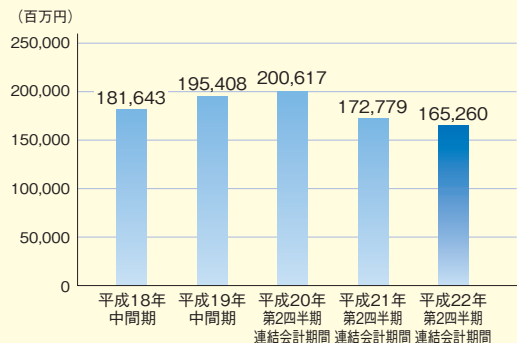
■売上高



総資産

1,652億60百万円

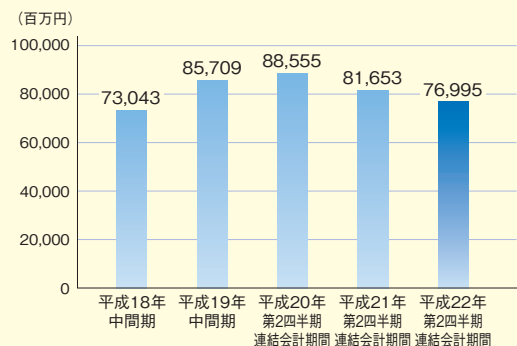
未完成工事請求不足高などの流動資産その他が減少しました。



純資産

769億95百万円

配当金の支払等により、利益剰余金が減少しました。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日) | 前連結会計年度末 (平成22年3月31日) |
|----------------|-------------------------------|--------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 111,667 | 109,251 |
| 固定資産 | 53,593 | 56,178 |
| 有形固定資産 | 31,791 | 33,090 |
| 無形固定資産 | 4,266 | 4,233 |
| 投資その他の資産 | 17,535 | 18,853 |
| 資産合計 | 165,260 | 165,430 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 47,514 | 42,986 |
| 固定負債 | 40,750 | 41,148 |
| 負債合計 | 88,264 | 84,135 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 81,565 | 83,852 |
| 資本金 | 8,024 | 8,024 |
| 資本剰余金 | 9,028 | 9,028 |
| 利益剰余金 | 66,924 | 69,210 |
| 自己株式 | △ 2,411 | △ 2,410 |
| 評価・換算差額等 | △ 6,680 | △ 4,600 |
| その他有価証券評価差額金 | △ 824 | △ 6 |
| 繰延ヘッジ損益 | 7 | △ 6 |
| 為替換算調整勘定 | △ 5,863 | △ 4,586 |
| 少数株主持分 | 2,111 | 2,042 |
| 純資産合計 | 76,995 | 81,295 |
| 負債純資産合計 | 165,260 | 165,430 |

連結損益計算書

(単位：百万円)

| | 当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) | 前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日) |
|---------------------------|---|---|
| 売上高 | 73,956 | 73,288 |
| 売上原価 | 61,633 | 60,821 |
| 売上総利益 | 12,322 | 12,467 |
| 販売費及び一般管理費 | 13,076 | 13,249 |
| 営業損失 (△) | △ 753 | △ 782 |
| 営業外収益 | 585 | 547 |
| 営業外費用 | 611 | 711 |
| 経常損失 (△) | △ 778 | △ 946 |
| 特別利益 | 42 | 351 |
| 特別損失 | 559 | 67 |
| 税金等調整前四半期純損失 (△) | △ 1,296 | △ 661 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 569 | 303 |
| 法人税等調整額 | △ 810 | △ 900 |
| 少数株主損益調整前四半期純損失 (△) | △ 1,055 | — |
| 少数株主利益又は少数株主損失 (△) | 123 | △ 105 |
| 四半期純利益又は四半期純損失 (△) | △ 1,178 | 41 |

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日) | 前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 6,163 | 6,400 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,352 | △ 1,218 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 2,568 | △ 4,636 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △ 900 | 630 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 1,342 | 1,175 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 31,101 | 27,902 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 32,443 | 29,077 |

営業利益

△7億53百万円

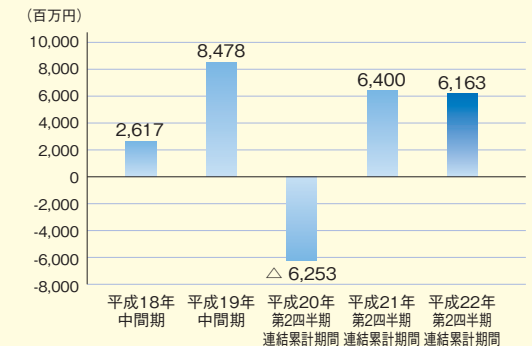
工場操業度の改善、コストダウンなどで、8月公表数値を大幅に改善しました。



営業活動によるキャッシュ・フロー

61億63百万円

受注増により、仕入債務が増加しました。



中国事業の中核「大福(中国)有限公司」の開業式

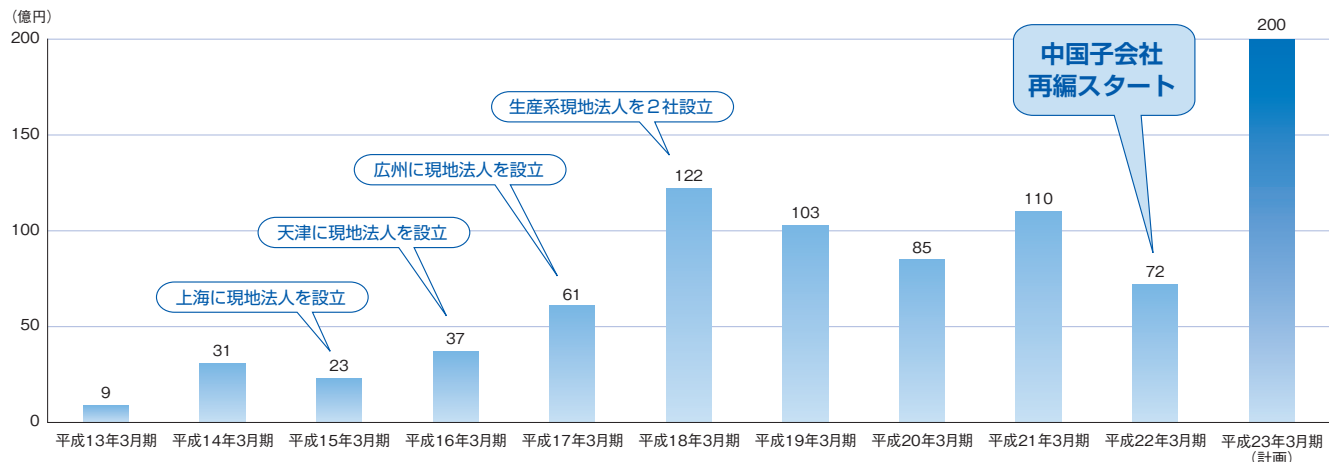
当社グループでは、この4月から、子会社のコンテックグループを含めた中国での事業を再編・統合し、中期3カ年経営計画「Material Handling and Beyond」(平成22年4月～平成25年3月、以下中計)で海外最大の市場と位置付ける中国で事業拡大を図っています。



その中核となる新会社「大福(中国)有限公司」の開業式が10月8日、中国の政府関係者はじめ、主要お取引先やパートナー会社など計180名をお招きし、上海市内で盛大に開催されました。

「大福(中国)」は、北は長春から南の広州までの15拠点をベースに、きめ細やかな販売・製造・工事・サービスを展開。食品・薬品・液晶パネル向けを中心とした受注が好調です。中計最終年度の目標としていた中国連結売上高150億円の今期達成は確実で、さらに200億円到達を目指しています。

中国売上高推移(連結)



国際物流総合展2010に出展

9月14日～17日、東京ビッグサイトで開催された「国際物流総合展2010」に出展しました。同展は2年に1度開かれるアジア最大級のロジスティクス展示会で、来場者は約12万名に上りました。

当社は、ブース全体をシアター風にデザインし、300インチの大型スクリーンを設け、最先端の3D映像を上映しました。製品が目の前で動き、自分の周囲を飛び交うような迫力ある映像と、暮らしの中でのマテリアルハンドリングの位置付けや可能性を描いたCGアニメーションによるショートムービーをご覧くださいました。

ブースへは、約1万5,900名が来場。シアターは毎回



満席となり、立ち見客が出るほどの盛況でした。自社製品にとどまらず、マテリアルハンドリングそのものをアピールし、来場者の注目を集めました。

大型車両専用の洗車機「ワックスモア・カミオン」を新発売

当社は、トラックやバスなど大型車両専用の洗車機「ワックスモア・カミオン」を発売しました。カミオンの使用水量は他社機比で半減、業界最少の170リットル／台を実現しました。また、大型車両による万一の事故に備えて、緊急停止装置や強風・地震時の洗車機本体の移動・転倒を防ぐ装置をそれぞれ標準装備。サービスステーション業界はもとより、当社の各種マテハンシステムをご利用いただいている運輸業界や自動車関連業界にもアプローチを図ります。



究極の安全を目指して、「安全体感道場」開設

安全への意識をより高め、ダイフクグループの労働災害を撲滅することを狙いとして、6月に大阪本社敷地内に「安全体感道場」を開設いたしました。危険作業を想定し、実際に「危険」を疑似体験することにより、「安全の大切さ」を「心と体」で感じて、「労働災害ゼロ」を実現いたします。

本道場では、災害のない確固たる安全基盤の構築を目指して、「感電体感」「クリーン体感」「挟まれ体感」「火気体感」「転倒体感」「墜落体感」の6つのステーションで実際に一人ずつ、労働災害に関するさまざまな「危険」体感をして、安全の重要性を確認していただきます。講座終了後は、安全体感道場修了証を発行いたします。

ダイフクグループの工事・サービス系メンバー全員が受講するだけでなく、新入社員教育カリキュラムにも組み込んでいます。また、工事関連協力会社や地域社会のみならず、外部からの受講生も広く募集していきます。

墜落体感



高所作業における墜落時の衝撃と安全带保護具の使用および飛火による発火を体感

火気体感



保護具の使用および飛火による発火を体感

株主様向け「日に新たな館」見学会 株主様も挟まれ体感

10月12日、株主様向け「日に新たな館」見学会を開催しました。東は青森から西は山口まで、150名にご参加いただきました。



実際に挟まれた際の衝撃などを体感

竹内会長をはじめとする経営陣が事業概要や近況などを説明したあと、館内見学を実施。最新製品・技術に加えて、安全体感道場の特設コーナーを設け、労働安全および環境への取り組みをご覧いただきました。また、事業所内をバスで一周しながら、各工場を車窓から紹介。洗車機展示場でも2機種のデモを実施しました。

日頃なかなか目にする機会のないマテハンシステムを直接ご覧いただき、当社への理解をより一層深めていただきました。

[日に新たな館ホームページ]

<http://www.daifuku.co.jp/hiniaratakan/ja/>

会社概要

(平成22年9月30日現在)

商号 株式会社ダイフク
 創立 昭和12年5月20日
 資本金 8,024,016,918円
 代表者 代表取締役社長 北條 正樹
 従業員数 5,383名(グループ総数)
 主な事業所
 本社 〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-2-11
 TEL:(06)6472-1261(代)
 東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-14-5
 TEL:(03)3456-2231(代)
 事業所
 滋賀 〒529-1692 滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225
 TEL:(0748)53-0321(代)
 小牧 〒485-8653 愛知県小牧市小牧原4丁目103番地
 TEL:(0568)74-1500(代)
 支店 北海道、東北、新潟、北関東、東京、藤沢、静岡、名古屋、
 東海、北陸、大阪、中国、九州
 海外 現地法人およびその事務所を世界20の国と地域に
 展開
 物流システム関係の生産拠点として中国・台湾・韓国・
 タイ・インド・米国・カナダにそれぞれ工場を有し、世
 界最適生産体制を構築

役員一覧

(平成22年9月30日現在)

| | |
|----------|-------|
| 代表取締役社長 | 己樹 豊男 |
| 代表取締役副社長 | 克正 史清 |
| 代表取締役副社長 | 史清 孝宏 |
| 代表取締役専務 | 宏毅 義夫 |
| 代表取締役専務 | 孝正 幹章 |
| 代表取締役専務 | 孝進 元敏 |
| 代表取締役専務 | 樹行 規治 |
| 代表取締役専務 | 博康 功之 |
| 代表取締役専務 | 竹北 平小 |
| 代表取締役専務 | 内條 井林 |
| 代表取締役専務 | 井沼 口上 |
| 代表取締役専務 | 猪田 平 |
| 代表取締役専務 | 森田 本 |
| 代表取締役専務 | 武田 泰 |
| 代表取締役専務 | 藤田 木 |
| 代表取締役専務 | 田原 直 |
| 代表取締役専務 | 中岩 島 |
| 代表取締役専務 | 佐藤 本 |
| 代表取締役専務 | 内北 井 |
| 代表取締役専務 | 鳥 弘 |

(注)監査役 内田 晴康、北本 功、鳥井 弘之は、社外監査役であります。



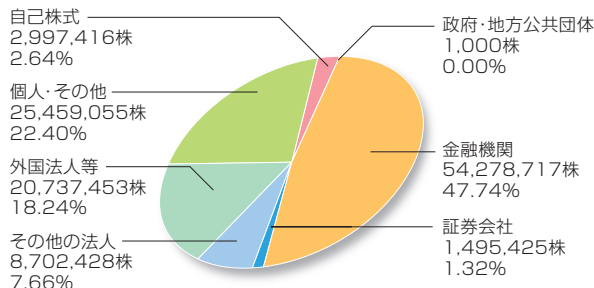
中国生産の拠点の一つ江蘇大福日新自動輸送機有限公司

株式情報

(平成22年9月30日現在)

| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 250,000,000株 |
| 発行済株式総数 | 113,671,494株 |
| 株主数 | 11,575名 |

所有者別分布状況



株主メモ

| | |
|--------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 6月開催 |
| 基準日 | 定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 |

公告の方法 電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は日本経済新聞に掲載します。
公告掲載の当社ホームページアドレス
<http://www.daifuku.co.jp/ir/>

| | |
|-----------------------|--------------------------------------|
| 上場証券取引所 | 大阪第1部、東京第1部 |
| 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 |
| 株主名簿管理人事務取扱場所 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 |

第95期 中間配当金のお支払いについて

第95期中間配当金は、平成22年11月12日開催の取締役会にて、1株につき5円と決議しております。同封の「第95期中間配当金領収証」により、お支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国支店および出張所ならびに郵便局（銀行代理業者）で払渡期間（平成22年12月10日から平成23年1月12日まで）にお受け取りください。

なお、振込先をご指定の方には「第95期中間配当金計算書」および「配当金のお振込先について」を同封いたしますので、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

上場株式配当等の支払いに関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正（平成20年4月30日法律改正第23号）により、当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りすることとなっています。（同封の「配当金計算書」が「支払通知書」を兼ねることになります。）

なお、「支払通知書」（同封の「配当金計算書」）は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます。

（株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関（証券会社）へお問い合わせください。）

（郵便物送付先） 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

（電話照会先） ☎ (0120)176-417

（インターネットホームページURL）
<http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます）を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

DAIFUKU
Material Handling and Beyond

株式会社ダイフク

本社：〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-2-11 TEL: (06)6472-1261 (代)

東京本社：〒105-0014 東京都港区芝2-14-5

TEL: (03)3456-2231 (代)

<http://www.daifuku.co.jp>